



福岡市政だより

令和5(2023)年

10/15

No.1741



自然光を取り入れ、温かみのあるデザインの照明・家具を配置した談話室



AR体験エリアで認知症当事者の視覚を疑似体験



分身ロボット「オリヒメ」と楽しく会話

「認知症フレンドリーセンター」オープン 〜認知症フレンドリーシティ・プロジェクト〜

- <特集>「認知症フレンドリーセンター」オープン …… **1-3**
- 市外国人総合相談支援センター …… **4**
- 新型コロナ関連情報 …… **5**
- 福岡市防災フェア …… **6**
- 情報BOX …… **7-14**
- 区版 …… **15-16**

※本紙掲載の情報は9月29日時点のものです。

今号の主な内容

人口 1,641,854人 (前月比1,051人増) 男=774,539人/女=867,315人	面積 343.47km²
世帯数 870,597世帯 (前月比523世帯増) ※人口と世帯数は令和5年9月1日現在推計	ダムの貯水率 86.65% (9月29日現在)

- 市役所代表電話 …… ☎711-4111 (市外局番は092)
- 市政に関するご意見・要望・相談 …… 広聴課 ☎711-4067 733-5580
- 福岡市政だよりの配布 …… 毎日メディアサービス ☎0120-359-303

市長からのメッセージ

認知症に優しいまちへ

市は、認知症になっても住み慣れた地域で安心して自分らしく暮らせるまちを目指す「認知症フレンドリーシティ・プロジェクト」を推進しています。

認知症の人やその家族が自由に交流し、相談ができる拠点施設「認知症フレンドリーセンター」が9月にオープンしました。ユニバーサルデザインの理念に基づく「認知症の人にもやさしいデザイン」を取り入れています。

認知症の人がどのように見えているのかをAR(拡張現実)で体験できるコーナーなどがあり、ユマニチュード等の各種講座、イベントも開催していきますので、認知症に関する学び・体験の場として、ぜひご利用ください。認知症に優しいまちを、みんなで一緒につくっていきましょう。

福岡市長 高島宗一郎



SDGs(エス・ディー・ジーズ)は、持続可能な社会の実現を目指す17の国際目標です。福岡市は、SDGsの達成に向けたさまざまな取り組みを進めています。

「認知症フレンドリーセンター」オープン

「認知症フレンドリーシティ・プロジェクト」

市は、認知症になっても住み慣れた地域で安心して自分らしく暮らせるまちを目指す「認知症フレンドリーシティ・プロジェクト」を推進しています。プロジェクト開始から6年目の今年、9月に拠点施設となる「認知症フレンドリーセンター」がオープンしました。

プロジェクトの新たな拠点施設となる「認知症フレンドリーセンター」を、健康づくりサポーターセンター・あいれふ(中央区舞鶴二丁目)2階に開設しています。

(拡張現実)で体験できるコーナーがあるほか、認知症の人と企業が共同開発した製品等の展示も行っています。

認知症フレンドリーセンターの党一浩センター長(49)Ⅱ写真Ⅱに話を聞きました。



介護支援専門員、介護福祉士、市認知症ライフサポーター等の資格を持つ党センター長

開催しますので、学びの場、認知症を知る場としてもご活用ください。

センターでは、認知症の人やその家族が気軽に相談・交流できます。また、認知症に関する講座やイベント、情報発信等もを行います。視野が狭くなる傾向にある認知症当事者が、実際にどのように見えているのかをAR

オープン以来、多くの人が見学や相談に訪れ、「居心地が良い」「こんな施設が欲しかった」といった声が聞かれます。優しさを伝えるためのケア技法・ユマニチュード®講座も定期的に

30年近く介護関係の仕事をしてきて、認知症の人とのコミュニケーション方法が、介護する側からの一方的なものから認知症の人に寄り添う方向に変わってきていると感じます。

認知症になったから何もできなくなるわけではありません。認知症の人だからこそ分かることや感じることを、社会に役立てることができます。私たちも、認知症の人から学ぶことがたくさんあります。

介護をしていると、どうしても孤立しがちになります。認知症の人同士やその家族が交流することで笑顔を取り戻していききました。ぜひこのセンターを、誰でも自由に使える交流の場としてご利用ください。



受付



相談室



AR体験



分かりやすい表示のトイレ

同センターは「認知症の人にもやさしいデザイン」を導入し、認知症の人が暮らしやすい環境づくりのための知見を有する「英国スターリング大学DSDC」の最上位ゴールドに認定されました

認知症本人ミーティング

認知症と診断された人や物忘れで悩んでいる人が、日々の暮らしや出来事、思いなどを語り合える場所です。

付き添いの家族同士で話をする場所も設けています。各開催日の前日までに認知症支援課に電話で予約の上、お越しください。

※お茶などの飲み物は各自で持参してください。

期10月27日(金)、12月8日(金)、来年3月15日(金)午後2時～3時
所認知症フレンドリーセンター
料無料

■問い合わせ先/認知症支援課 ☎711-4891 ☎733-5914

【講座のご案内】

市内在住または通勤・通学する人を対象に、次の通り講座を実施します。※いずれも無料。

①一般市民向け講座「初めて知るユマニチュード」

期12月10日(日)午後2時～4時 所ふくふくプラザ601研修室(中央区荒戸三丁目) 定100人(先着) 期10月16日(月)から日本ユマニチュード学会ホームページで受け付け 期日本ユマニチュード学会福岡講座窓口 ☎03-6427-6894(平日午前10時～午後5時) 所fukuoka@jhuma.org



スマホはこちらから

②ユマニチュード一般向け講座

ユマニチュードを初めて学ぶ人のための入門講座です。

期11月22日(水)午前10時半～午後0時半 所認知症フレンドリーセンター 定30人(先着)

③認知症サポーター養成講座

認知症を正しく理解し、認知症の人と家族を温かく見守る「認知症サポーター」の養成講座です。

期11月9日(木)午前10時半～午後0時半 所認知症フレンドリーセンター 定30人(先着)

※②③の申し込みは、どちらも10月17日(火)以降に電話(☎791-9115)またはファクス(☎791-9550)、メール(✉contact@fdfc.jp)に住所、氏名、電話番号を記入して認知症フレンドリーセンターへ。

認知症の人にもやさしいデザイン

「より過ごしやすい住環境のために」

市は、認知症の人を含む全ての人が安心してストレスなく暮らせるまちをつくっていくため、ユニバーサルデザインの理念に基づいた「認知症の人にもやさしいデザインの手引き」を令和2年に策定しました。

▽トイレの扉など目立たせたものは、周囲の壁や床とのコントラストを付ける▽目線の位置に、分かりやすい文字とピクトグラムを掲示するーなど、簡単な工夫で、誰もが行動しやすく、より過ごしやすい環境をつくるための30のポイントをまと

めています。詳しくは、市ホームページ「福岡市 認知症の人にもやさしいデザイン」で検索をご覧ください。※冊子は市ホームページから無料でダウンロード可。

同デザインは、博多区役所、公民館、老人いこいの家、地下鉄の駅など49施設に導入されています(令和5年3月末現在)。

認知症フレンドリーセンターでは、シヨールームとして見学を受け入れています。高齢者施設や公共施設等からの相談も随時受け付けます。



9月に改訂された冊子(右は英語版)。情報プラザ(市役所1階)他で販売(550円)

期11月9日(木)午前10時半～午後0時半 所認知症フレンドリーセンター 定30人(先着)
期11月22日(水)午前10時半～午後0時半 所認知症フレンドリーセンター 定30人(先着)
期10月16日(月)から日本ユマニチュード学会ホームページで受け付け
期日本ユマニチュード学会福岡講座窓口 ☎03-6427-6894(平日午前10時～午後5時) 所fukuoka@jhuma.org

「優しさを伝えるケア技法「ユマニチュード」」 〜認知症の人とのコミュニケーションのために〜

ユマニチュードは「人間らしくある」という意味を持つフランス語の造語で、認知症など介護を要する人とスムーズにコミュニケーションを取るための、フランス生まれのケア技法です。

ユマニチュードは、「見る」「話す」「触れる」「立つ」を四つの柱に、「あなたは大切な存在です」と伝えるための技術と、「なぜそれを行うのか」という考え方(哲学)からできています。

市は、平成28年度から病院・介護施設向けの研修や、家族介護者向けの講習会を始めました。講習を受けた人が実践したと

ころ、ケアを拒んだり突然怒り出したりしていた被介護者の行動や態度に改善が見られたとの報告がありました。

介護者から「表情が穏やかになった」「ありがとうと言ってくれた」など喜びの声や負担軽減の効果も報告され、その有効性が確認できたことから、市は平成30年度に市民向けのユマニチュード講座をスタートさせました。

●ユマニチュード講座の普及
これまでユマニチュード講座は、全国でも限られたインストラクターしか実施することができませんでした。

優しさを伝えるケア技法・ユマニチュード

認知症の人を支えるためには、「あなたのことを大切に思っています」と相手が理解できるよう、技術と哲学を通じて伝え続けることがとても重要です。



「見る」

認知症の人は視野が狭くなることもあるため、同じ目の高さで正面から顔を近づけて見つめる。



「話す」

ゆっくり、低めの声で話す。相手に反応がなくても、無言ではなく話し掛けながら介護を行う。



「触れる」

つかむのではなく、下から支えるように、広い面積で触れて安心感を与える。

イラスト提供:日本ユマニチュード学会



「立つ」

寝たきりでは筋力も認知機能も衰えてしまうことから、可能な限り立つことを援助する。

私もユマニチュードを 実践しています



特別養護老人ホーム「りんごの家」(博多区井相田三丁目)施設長・草場進さん(55)

私たちの施設では、4年前にユマニチュードを取り入れた介護を始め、現在はユマニチュードの認証取得に向け、より質の高いケアの実践に取り組んでいます。ユマニチュードの技法は、コミュニケーションの基礎だと思えます。たとえ相手の目が見えなくても、きっと気持ちは伝わります。認知症の人に対してはもちろん、自分の大切な人にこの考え方で接することができれば、もっと優しい社会になると思います。

市はユマニチュードを地域に広めていくために、平成31年度にユマニチュード講座を実施できる講師として、独自で「ユマニチュード地域リーダー」20人を養成しました。

令和4年度には地域リーダーが実施する講座の対象を企業にも拡大し、講座の受講者は累計で8千人を超えました。

市は今後も、講座や啓発活動を通じてユマニチュードのさらなる普及に取り組んでいきます。

ユマニチュード講座を開催 しませんか

皆さんの身近な地域や学校、企業等にユマニチュード地域リーダーを講師として無料で派遣し、出前講座を行います。

●一般向け講座

▽福岡市の認知症高齢者の現状▽認知症を知る▽ユマニチュードとは▽ユマニチュードの基本的な技術を学ぶ▽ユマニチュード実践家族のその後―など、ユマニチュードを「知る」た

【問い合わせ先】 各区地域保健福祉課

区	電話	ファクス
東	645-1087	631-2295
博多	419-1099	402-1169
中央	718-1110	734-1690
南	559-5132	559-5135
城南	833-4112	822-2133
早良	833-4362	833-4349
西	895-7078	891-9894

各講座実施の申し込みは、開催希望日の6週間前までに各区地域保健福祉課へ。※企業等は認知症フレンドリーセンター(☎791・9115 F791・9550)へ。

認知症の人やその家族が生き生きと暮らしていくために、社会参加できる場、活躍できる場が求められています。

「支援」から「活躍」へ 〜認知症の人が自分らしく暮らすために〜

市は、認知症の人の「支援」からステップアップし、認知症の人が生き生きと「活躍」できる環境づくりを進めています。

●福岡オレンジパートナーズ

認知症の人とその家族、企業・団体、医療・介護・福祉事業者、そして市が一緒になって、認知症になっても自分らしく生きるために何ができるかを考え、実際の取り組みにつなげていきます。

平成30年度から勉強会を重ね、これまで約90の企業・団体等が参加しました。その中から、認知症の人が従業員として働く事例なども生まれています。

●オレンジ人材バンク

認知症の人がいつまでも自分らしく活躍できる場の創出にちなげようと、市は国内で初めて、「オレンジ人材バンク」を設立しました。

オレンジパートナーズ参加企業が、人材バンクに登録した人に就労や講演、製品モニターの依頼をするほか、企業と認知症当事者が「この製品どう?」「こんなのがあったらいいな」など意



認知症の人の声を生かした製品を認知症フレンドリーセンターに展示しています

見交換を行います。認知症の人が使いやすいものは、みんなに優しい、使いやすい製品です。これまでに、「高齢者や認知症の人が安心して使い続けられるガスコンロ」「モノがなくならないガーデニングトートバッグ」結ばなくていいエプロン」など、当事者の声を生かした製品開発が進んでいます。

厚生労働省の発表によると、認知症高齢者の数は2025年には約700万人となり、65歳以上の高齢者の約5人に1人に達すると見込まれています。

市はこれからも、さまざまな団体との連携・取り組みを進め、「認知症にやさしいまち」を目指します。一人一人の心豊かな「認知症フレンドリーシティ」をみんなで作っていきましょう。

■問い合わせ先/認知症支援課 ☎711・4891 F733・5914